

くまぐすサーチ



くまぐす先生

Vol.2

発見！近くにある面白い生き物の世界

ここでは動画の中で紹介した生物や場所を一目でわかるようにしてあるぞ。
ぜひこの資料を活かして各地にある和歌山の自然を実際に見て感じてきてほしい！

1

身近な海・干潟の生き物

和歌山市の和歌浦干潟を舞台に、干潟の環境と貴重な生物たちを紹介するぞ。
アサリを増やす活動にもふれ「くまぐすスコープ」ではアサリによる水質改善効果についても紹介する。



2

魚たちの生き抜く戦略

紀の川を舞台にさまざまな魚たちを紹介するぞ。
汽水域から上流へさかのぼり、「くまぐすスコープ」では鳴き声を出す魚、ドンコやそのドンコに自分の卵を守ってもらう魚など、魚たちのいろいろな戦略を紹介しよう。



3

昆虫たちの色のひみつ

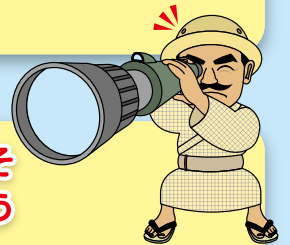
紀伊風土記の丘など町から近い森で発見した昆虫たちの体の色について紹介する。
「くまぐすスコープ」ではタマムシの美しい色の秘密の紹介。「くまぐすワープ」では時間を夜へ早送りして、カブトムシの色の理由にも迫るぞ。



4

身近な場所にこそ目を向けてみよう

市街地にある新宮市の浮島の森を探検じゃ！
ここでは地下水などの影響で多様な植物が自生し、身近な自然にもたくさんの発見があることを教えるぞ！また「くまぐすスコープ」では孢子で増えるシダ植物についてふれるぞ。



ふみちゃん

和歌山が大好きな女の子。
将来の夢は、いきもの博士。
今日もくまぐす先生といっしょに和歌山の自然を探検します。

くまぐす先生の ひとつことクイズ!

ヤマトタマムシやカブトムシの体の色には天敵から身を守るためのヒミツがかくされている！
動画を見て、○○や●●に当てはまる言葉を考えてみよう！

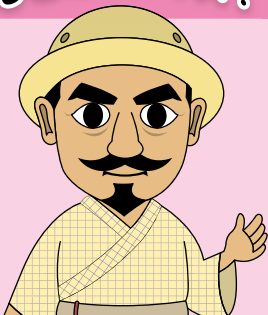
Q1 ヤマトタマムシのヒミツ

羽の○○や表面の●●●によって光の通り方や反射の仕方が違うのでキラキラと虹のような様々な色があらわれるんじゃ。

Q2 カブトムシのヒミツ

夜に活動するカブトムシは、体の色を○の色に似せることで、熱くなりすぎず、敵にも見つかりづらいのじゃ！

答えはうらページ一番下にあるぞ!





身近な海・干潟の生き物



体の大きさが約1cmの小さな**チゴガニ**は、干潟の泥を掘ってそこで生活をしている。泥の中に含まれる栄養分を食べ、残った砂をダンゴ状にするのが特ちょうじゃ。



巻貝の仲間で和歌浦干潟ではよく見られる**イボウミナ**は、日本全体で見ると、その数とくらせる環境が減ってきている。環境の変化にとてもびんかんな生き物なので、みんなも大切にしていこう。



ハクセンシオマネキは干潟に住むカニの仲間で、白い大きなハサミ足が特ちょう的じゃ。求愛行動の時に白いハサミを左右に振ってまるで海水を呼び寄せているように見える行動をするので、この名前が付けられたんじゃ。



提供：和歌山県立自然博物館

普段は干潟の泥にもぐってくらす面白い顔をした**チワラスボ**は、実はハゼの仲間じゃ。泥の中にひそむ小さなエビやカニを食べて生活をしているんじゃ。

魚たちの生き抜く戦略



提供：内山りゅう

クロダイは海藻やエビ、貝類などを丈夫な歯でくわいて食べる雑食の生き物。面白い特ちょうとして、実は子供から大人になると性別がオスからメスへと変わっていく魚なんじゃ。



提供：内山りゅう

ニゴイと同じように流れがおだやかな河川でくらす**キンブナ**は、動物プランクトンや藻類（そうい）などを食べる。メスの数がオスよりも多く、繁しよくをする際にはオスを必要としない珍しい性質を持つ魚なんじゃ！



提供：内山りゅう

紀の川の汽水域などによく生息している**ヒイラギ**は、常に小さな群れを作って生活をしている。実は鳴き声を上げる魚で、上下の歯をすり合わせることで発するのじゃ。



提供：和歌山県立自然博物館

河川やため池などに生息する**ドンコ**。小石が多い場所で繁しよくをする魚で、その時期になるとオスが低い音で「くーくー」と鳴き声をあげてメスにアピールをする面白い魚じゃ。



提供：内山りゅう

ニゴイは流れがゆるやかな川の底などでくらししており、子供の頃はプランクトン、大人は藻類（そうい）や小魚などを食べる雑食の魚じゃ。成長すると全長約40cm以上にもなるそうじゃ。



提供：和歌山県立自然博物館

ドンコと同じように川や水路などに生息する**ムギツク**は、岩や水草のかげにかくれて生活をしている。産卵の時期になると、縄張り意識の高いドンコなどのすみかに卵を産み付ける「托卵（たくらん）」をすることで、自分たちの卵を守ってもらい、子孫を残しておるのじゃ。

昆虫たちの色のひみつ



エノキやクヌギなど木の葉を食べてくらす成虫の**ヤマトタムシ**は、日本の甲虫の中で最も美しいともいわれる昆虫じゃ。羽に当たった光が反射する加減などによって体が虹色にかがやき、その色を嫌う天敵の鳥たちから身を守っておると言われている。



クヌギなどの樹液が大好物の**カブトムシ**。一説によると体の色は天敵から身を守るために、えさ場の樹液が出る部分に近い色になったといわれているんじゃよ。

身近な場所にごそ目を向けてみよう



湿地帯や水田、池沼など水のある環境が好きな**キイトンボ**。珍しい色をしているが、水草などに留まっている状態だとなかなか見つけるのは難しい昆虫じゃ。



提供：新宮市

低地の日当たりの良い湿地帯に群生する**テツホシダ**は、常緑性（じょうりょくせい）があることから冬も枯れず、一年中緑色の葉っぱをつけておる美しいシダ植物の仲間なんじゃ。

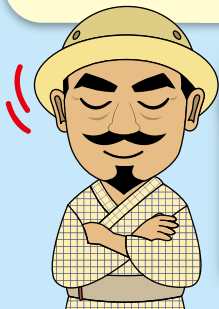


提供：新宮市

ヤマドリゼンマイは山地の湿原に群生することが多いシダ植物。本来は暖かい気候の和歌山では見るのが難しい植物じゃが、浮島の森には地下深くに冷たい水があるおかげで、見ることができるとのじゃよ！

いきもの博士
高須先生からの
お話

胞子で繁しよくするシダ植物の仲間は、約4億年前から地球上に生育しています。今でも熱帯を中心に1万種類以上が知られ、園芸植物としても親しまれています。



ここに行ってみよう！

くまぐす先生の
探索ポイント

南紀熊野ジオパークセンター

■開館時間＝午前9時～午後5時
■休館日＝年末年始（12/29～1/3）
<https://nankikumanogeo.jp/>

